

令和 5 年度広島県デジタルトランスフォーメーション推進事業の 取組結果について

1 要旨・目的

「令和 5 年度広島県デジタルトランスフォーメーション推進事業」の取組結果について報告する。

2 現状・背景

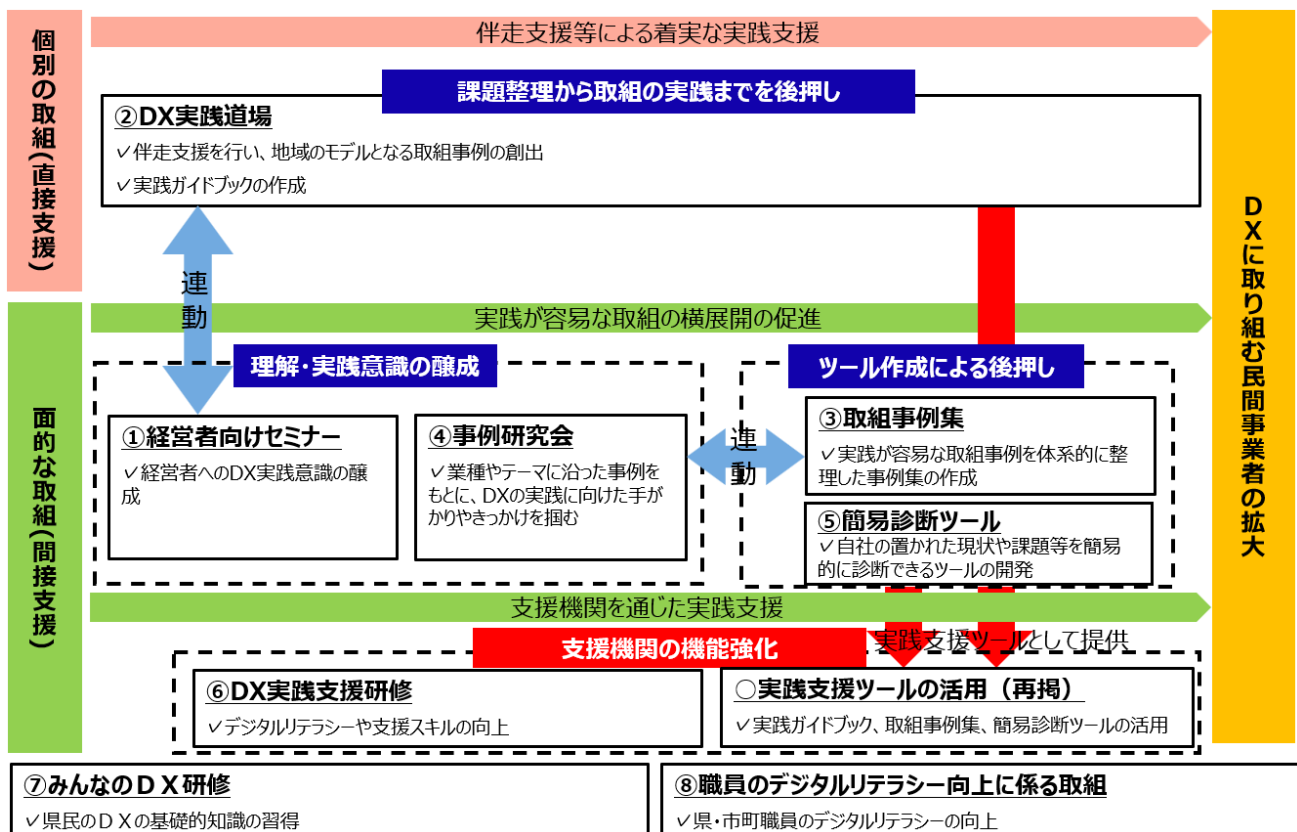
令和 4 年に策定した「広島県 D X 加速プラン」に基づき、令和 5 年度は、「伴走支援を通じたモデルケースの創出」と「実践が容易な取組の横展開の促進」の両面から、県内の民間事業者等の D X を後押しする取組を実施した。

3 概要

(1) 実施内容

取組	概要
① 経営者向けセミナー	✓ 経営者への D X の実践意識の醸成
② D X 実践道場	✓ 伴走支援を通じたモデル事例の創出
③ 取組事例集	✓ 実践が容易な取組事例を体系的に整理
④ 事例研究会	✓ 県内外の様々な D X の取組事例をもとに、D X の実践に向けた手がかりやきっかけの提供
⑤ 簡易診断ツール	✓ 自社の課題を簡易的に診断し、課題解決に向けた支援策等を提示するツール
⑥ D X 実践支援研修	✓ 金融機関や商工団体などの地域の支援機関（以下「支援機関」という。）における支援機能（デジタルリテラシーや支援スキル）の強化
⑦ みんなの D X 研修	✓ 民間事業者や行政等の D X に対する理解と実践意識の醸成
⑧ 職員のデジタルリテラシー向上に係る取組	✓ D X を自分事として捉え、各政策分野においてデジタル技術を積極的に利活用できる知識の習得

【各取組の全体概要】



(2) 各取組の結果

① 経営者向けセミナー

DXを推進するためには経営者層がデジタル技術やデータの利活用を理解し、リーダーシップを発揮することが重要であるため、経営者層を対象に、経営者の役割や社員の巻き込み方等を学ぶセミナーを開催した。

項目	内容	
実施内容	開催日	プログラム
	第1回 (7/11) @広島市	<ul style="list-style-type: none"> 経営者特別講演 講演者と知事によるパネルディスカッション
参加者	第2回 (3/27) @広島市	<ul style="list-style-type: none"> 経営者特別講演 DX実践道場成果発表 登壇者：株式会社カワミツ シンワ株式会社 有限会社備後レポート社 参加企業と知事等によるパネルディスカッション
	※アーカイブ動画掲載先： https://dx-hiroshima.jp/seminar/02/	
参加者	計 394 名（現地 176 名、オンライン 218 名） ・第1回：208 名（現地 93 名、オンライン 115 名） ・第2回：186 名（現地 83 名、オンライン 103 名）	

② D X 実践道場

モデルケースを創出するため、課題整理から取組の実践に至るまでを一気通貫で伴走支援した。

項目	内容																							
対象者	次の条件に該当する県内の中小・小規模事業者（全 40 者） <ul style="list-style-type: none"> ・ D X にまだ取り組めていない者 ・ D X に着手したが、上手くいっていない者 ・ D X の更なるステップアップにチャレンジしたい者 																							
実施内容	<p>ア デジタルリテラシー等の習得のための各種勉強会の実施</p> <table border="1" data-bbox="464 495 1422 1137"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I T ツール/補助金勉強会 (9/14)</td> <td>37 事業者 68 名参加 ・ ノーコードツールや R P A などの I T ツールや I T 導入補助金、リスクリングに関する県の取組等について紹介</td> </tr> <tr> <td>課題抽出ワークショップ勉強会 (9/20～21、9/27～28)</td> <td>35 事業者 65 名参加 ・ 自社の業務プロセスを整理し、プロセスごとの困りごとを洗い出すとともに、課題解決に向けた各種施策を検討</td> </tr> <tr> <td>I T ツールハンズオン勉強会 (12/7)</td> <td>17 事業者 27 名参加 ・ ノーコードツールや生成 A I をテーマに、実際にツールを触って学び、課題解決に向けた活用方法を検討</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 課題整理から D X 実践までの一連の伴走支援の実施</p> <p>I T コンサルタント等の専門家に加えて、一部の支援先においては、支援機関が参画し、D X 実行計画の策定等を支援</p> <p>【取組結果】</p> <table border="1" data-bbox="464 1330 1422 1816"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>主な内容</th> <th>事業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 課題分析・対策検討</td> <td>・ 現状把握や課題の整理、計画策定、取組内容の決定に向けた支援 など</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2 I T ツールの選定・導入支援</td> <td>・ 最適な I T ツールの提案や I T ベンダー等とのマッチング ・ I T ベンダー等と連携し、I T ツールの導入に向けた計画策定 など</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>3 D X 実践</td> <td>・ I T ツールを活用した D X の実践 (試行を含む)</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">計</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ D X 実践ガイドブックの作成</p> <p>D X 実践道場を通じて得られた成功事例や教訓事例、D X の具体的な進め方をまとめたガイドブックを作成</p> <p>※ D X 実践ガイドブック掲載先：https://hiroshima-dx.jp/guidebook/</p>	項目	開催状況	I T ツール/補助金勉強会 (9/14)	37 事業者 68 名参加 ・ ノーコードツールや R P A などの I T ツールや I T 導入補助金、リスクリングに関する県の取組等について紹介	課題抽出ワークショップ勉強会 (9/20～21、9/27～28)	35 事業者 65 名参加 ・ 自社の業務プロセスを整理し、プロセスごとの困りごとを洗い出すとともに、課題解決に向けた各種施策を検討	I T ツールハンズオン勉強会 (12/7)	17 事業者 27 名参加 ・ ノーコードツールや生成 A I をテーマに、実際にツールを触って学び、課題解決に向けた活用方法を検討	段階	主な内容	事業者数	1 課題分析・対策検討	・ 現状把握や課題の整理、計画策定、取組内容の決定に向けた支援 など	5	2 I T ツールの選定・導入支援	・ 最適な I T ツールの提案や I T ベンダー等とのマッチング ・ I T ベンダー等と連携し、I T ツールの導入に向けた計画策定 など	9	3 D X 実践	・ I T ツールを活用した D X の実践 (試行を含む)	26	計		40
項目	開催状況																							
I T ツール/補助金勉強会 (9/14)	37 事業者 68 名参加 ・ ノーコードツールや R P A などの I T ツールや I T 導入補助金、リスクリングに関する県の取組等について紹介																							
課題抽出ワークショップ勉強会 (9/20～21、9/27～28)	35 事業者 65 名参加 ・ 自社の業務プロセスを整理し、プロセスごとの困りごとを洗い出すとともに、課題解決に向けた各種施策を検討																							
I T ツールハンズオン勉強会 (12/7)	17 事業者 27 名参加 ・ ノーコードツールや生成 A I をテーマに、実際にツールを触って学び、課題解決に向けた活用方法を検討																							
段階	主な内容	事業者数																						
1 課題分析・対策検討	・ 現状把握や課題の整理、計画策定、取組内容の決定に向けた支援 など	5																						
2 I T ツールの選定・導入支援	・ 最適な I T ツールの提案や I T ベンダー等とのマッチング ・ I T ベンダー等と連携し、I T ツールの導入に向けた計画策定 など	9																						
3 D X 実践	・ I T ツールを活用した D X の実践 (試行を含む)	26																						
計		40																						

③ 取組事例集

実践が容易な取組の促進（横展開）を図るため、全国の取組事例を収集し、体系的に整理した事例集を作成した。

項目	内容							
事例内容	<p>県内の産業構造や、本県のDXの現状や課題を踏まえ、特に県内の中小・小規模事業者がDXに着手する際の参考やきっかけとなるよう、従業員規模や業種、課題等に区分けし、それぞれに対応した事例集を作成</p> <p>収集事例数：79 事例</p>							
	<div style="text-align: right;"> 第一段階 第二段階 第三段階 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">企業情報</td> <td style="width: 30%;">三井屋工業株式会社 業種：製造業 従業員規模：101～300人</td> <td style="width: 20%;">課題分類</td> <td style="width: 30%;">生産プロセスの改善 社内の働き方改革 人手の確保・育成</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td style="width: 20%;">DX実践の目的</td> <td style="width: 30%;">サプライチェーン</td> </tr> </table> <div style="background-color: #008080; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">製造現場の見える化で、製品不良率の改善と収益回復</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>課題内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車の内外装部品を製造しているが、不良品が多いことによるコスト増加や製品不良率を改善するための残業増加で、収益悪化の課題を抱えていた。 社へ上りてきた不良率が2%程度だが、財務データによる実際の不良率は4%以上であり、正確な製品不良率を管理・把握できていなかった。 紙の日報を用いて作業工程管理を行う中で様々な問題を抱えていた。（集計ミス、書き漏れ、書き間違い、他日籍の従業員が書いた言語が読めないなど） 会社の経営状態に不安を感じた従業員が離職し、現場の生産性低下、不良率がさらに悪化するという状態になった。 <p>実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造現場を客観的・定量的に把握するため、ソースコードをほとんど使わずにシステム開発できるローコードツールに着目し、日報を電子化して現場状況の見える化を行った。 電子日報アプリの日報やセンサー、カメラから取得できたデータ（生産情報、不良情報など）を生産実績管理システムに集約し、集約情報を基に稼働状況・ロス要因分析を「工程別・品番別・作業員別」の項目で確認し、改善の優先順位付けを行った。 生産実績管理システムで集約した情報を、生産進捗の可視化のためダッシュボードと連携し、計画の進捗状況を関係者間で共有した。 異常時に作業者がタブレット上のボタンを押すことで、管理者のスマートウォッチに異常発生時の連絡が届き、その情報を生産実績管理システムに入力し、データとの紐づけを行うことで、迅速な対応が可能になった。 <p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 月600枚の紙をデジタル化し、日報の集計は自動化され、転記ミスがなくなった。 現場では生産情報や不良情報が集約され、生産状況を管理できるようになり、異常があれば早期発見、対応することができるようになった。不良率は4.0%から5.0、4%へ改善した。不良の原因が分析できるようになったことで、改善・再発の防止に繋がった。 不良率を改善するために残業が発生していたが、労働環境が改善され、離職率は約10%から1.6%へと激減し、収益が回復した。 現場のデータを見える化したことで、従業員に新たな気づきが生まれた。労働環境の改善に伴い従業員間のコミュニケーションが増加したこともあり、その気づきを従業員間で共有し、モチベーションの向上にも結び付いた。 <p>ITツール</p> <p>【使用ツール】HiConnex https://www.hiconnex.jp/ 【取り扱い企業】センテック・ホールディングス株式会社 https://www.senteck-hd.com/ 【ツール概要】作業日報を電子化し、KPIの把握、生産実績をベースとした管理が可能</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子日報アプリの入力で、月600枚の紙をデジタル化 生産実績情報をリアルタイムで管理・問題の早期発見で不良率は4.0%から5.0、4%に改善 労働環境の改善で、離職率は約10%から1.6%へと激減 <p>不良率の悪化 → 生産性の低下 → 離職率の増加 → 収益の悪化</p> <p>生産実績管理システム データ集約 → 生産情報・不良情報の入力 → 異常情報入力 → 管理者のスマートウォッチに通知</p> <p>データ取得 (センサー, カメラ) → データ集約 (電子日報アプリ) → データ集約 → 連携 → 異常情報入力 → 管理者のスマートウォッチに通知</p> <p>ダッシュボード → データ可視化 → 生産実績情報を可視化し、不良原因を抽出</p> <p>不良の原因を分析して生産プロセスの改善</p> <p>製品の不良率の改善 → 残業の削減 → 労働環境の改善 → 離職率の減少 → 生産性の向上</p> <p>収益の回復</p> <p>補助金活用 IT導入補助金</p> <p>【使用ツール】MotionBoard https://www.wingarc.com/product/motionboard/index.html 【取り扱い企業】ウイングアーク1st株式会社 https://www.wingarc.com/ 【ツール概要】データを集約・可視化し、データ活用に必要な機能を1つのプラットフォームで提供するツール</p> </div> </div> <p style="font-size: 0.8em; margin-top: 10px;">※取組事例集掲載先：https://dx-hiroshima.jp/jirei/</p>	企業情報	三井屋工業株式会社 業種：製造業 従業員規模：101～300人	課題分類	生産プロセスの改善 社内の働き方改革 人手の確保・育成			DX実践の目的
企業情報	三井屋工業株式会社 業種：製造業 従業員規模：101～300人	課題分類	生産プロセスの改善 社内の働き方改革 人手の確保・育成					
		DX実践の目的	サプライチェーン					

④ 事例研究会


DXに着手できていない民間事業者等の実践意識を醸成するため、県内外の様々なDXの取組事例をテーマに、DXに取り組む際の参考やきっかけとなる研究会を開催した。

項目	内容		
対象者	DXに着手できていない民間事業者等		
実施内容	既にDXを実践している民間事業者等による取組紹介や、紹介した事例の解説や深掘りを実施するとともに、「明日から自社でできること」を検討するワークショップを実施		
	開催日	講演内容	参加者
	第1回 (11/10) @広島市	友鉄工業株式会社 「DXで社風が変わった！ - 自動化（数字転記等）による業務効率化と社員のDXマインドの醸成 - 」	120名
	第2回 (12/12) @福山市	株式会社WORK SMILE LABO 「デジタル化への社長の覚悟！ - デジタル技術の活用による働き方改革と人材確保 - 」	82名

	第3回 (1/22) @尾道市	株式会社イズミダ 「田舎の鮮魚店でもできるDX - バックオフィス業務の効率化から時間を生み出す - 」	79名
	第4回 (2/5) @廿日市市	西機電装株式会社 「失敗経験は改善ネタの宝庫 - データのデジタル化が進めばDXへの道は開かれる - 」	65名
	第5回 (2/20) @東広島市	日本ツクリダス株式会社 「小さい会社でもできる無理のないデジタル化事例 - 町工場が実践したDX推進の取組と新たなサービス創出 - 」	66名
	第6回 (3/5) @三次市	有限会社ゼムケンサービス 「小さな工務店におけるダイバーシティ経営の取組とDX戦略 - デジタルを活用した技術承継と女性が活躍できる働き方改革 - 」	47名
※第3回以降は、生成AIを活用した現地参加者によるワークショップを実施 ※アーカイブ動画掲載先： https://dx-hiroshima.jp/labo/06/			
参加者	計 459 名		

⑤ 簡易診断ツール

民間事業者等のDXを後押しするため、自社がDXを進める上での課題等を客観的に診断し、診断結果に応じて、課題解決の参考となる取組事例や、国や県、市町等が提供している補助金や相談窓口等の支援メニューを提示するツール（WEBツール）を開発した。

項目	内容
機能	<p>ア 簡単な設問に回答することで、自社の課題を診断するとともに、課題解決の参考となる取組事例や活用できる支援メニューを提示する機能</p> <p>イ 全国から収集した課題解決の参考となる取組事例を検索する機能</p> <p>ウ デジタル化などに活用できる補助金や相談窓口などの支援メニューを検索する機能</p>  <p>※簡易診断ツール掲載先：https://dx-hiroshima.jp/shindan/</p>

⑥ DX実践支援研修

支援機関の従事者（以下「支援者」という。）のデジタルリテラシーや支援スキルの向上を図るため研修を実施した。

項目	内容				
対象者	支援者				
実施内容	デジタル技術を活用した課題解決策の幅広い助言・提案力の向上を図るため、2日間かけて、各種課題解決に資するITツールや支援メニューに関する知識を習得する研修を実施				
		広島会場		福山会場	
	スケジュール	1回目	2回目	1回目	2回目
		1日目	11/16	11/29	11/15
	2日目	11/27	12/12	11/28	12/13
	研修概要	【1日目】 ・課題解決策となるデジタルツールの紹介 ・デジタルツールの体験会 【2日目】 ・ロールプレイングの実施 ・デジタル投資に活用できる補助金等の紹介 ※アーカイブ動画は、研修参加団体等に対して公開			
参加者	計82名（広島会場：49名、福山会場：33名）				

⑦ みんなのDX研修

民間事業者や行政等のDXに対する理解と実践意識を醸成するため、DXの考え方や実践するための基礎を学ぶ研修を実施した。

項目	内容			
対象者	県内に事業所がある企業の社員、県内の自治体や団体の職員、県内在住の方（主にDXを学んだ経験がない方を想定）			
実施内容	【定期研修】 ・DXの定義 ・生成AIなど最新デジタルツールの紹介 ・業務の課題とDX事例 【個別研修（講師派遣型）】 ・定期研修を基本としつつ、業務課題や紹介事例等を要望に応じて個別にカスタマイズ			
参加者	区分	開催回数	参加者数	備考
	定期研修	10	299	
	個別研修	17	614	企業、行政、大学、女性向け
	計	27	913	

⑧ 職員のデジタルリテラシー向上に係る取組

行政におけるDX推進を図るため、職員のデジタルリテラシー向上に係る取組を開始した。

項目	内容		
対象者	県及び市町職員		
実施内容	デジタル技術を活用する上で求められる知識が学べるよう、ITパスポートレベルの動画を市内LAN上で配信 【分野ごとの動画本数等】		
	分野	動画本数	時間 (分)
	ストラテジ系（経営戦略、システム戦略等）	15	220
	マネジメント系（プロジェクトマネジメント等）	5	69
	テクノロジー系（システム、セキュリティ等）	21	329
	計	41	618
※今後、シラバス改訂に対応したコンテンツを追加予定			
利用者	県職員：871名 ※12市町においても活用		

4 その他

○広島県DX推進コミュニティHP：<https://hiroshima-dx.jp/>

○ひろしまDX特設ポータルサイト：<https://dx-hiroshima.jp>

○広島県DX加速プラン：<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshima-dx-torikumi/plan.html>